

## 令和2年度 兵庫県外国人県民共生会議議事録

1 日時 令和2(2020)年7月29日(水) 10:30~12:00

※オンライン会議システムによる開催

2 議題 ポストコロナ社会に向けた多文化共生のあり方

○説明(事務局)

新型コロナウイルス感染拡大をめぐる多文化共生支援の状況 等

### 【意見交換】

#### ○事務局

- ・新型コロナウイルス感染拡大により、社会構造は東京一極集中から地方分散、地域創生へと進むものと考えている。新型コロナウイルス感染拡大による課題について、皆様から様々な意見をお聞かせいただきたい。

#### ○事務局

- ・外国とつながりのある皆様方の団体においても、コロナ禍の中で、問題等が生じていると思う。今日はそういうところをお話しいただきたい。

#### ◇構成団体

- ・兵庫県のホームページでは、新型コロナウイルス感染症に関する知事メッセージが、外国語版ホームページ以外の場所に掲載されており、そこにたどり着くのが困難であった。新型コロナウイルス感染症や、災害等の重要な情報は、外国語版のホームページにも掲載いただき、このページを確認してくださいと案内した方がいいのではないか。
- ・防災等に関して、ひょうご防災ネットは外国語に対応しているので、そういった情報に誘導するよう、外国語版ホームページに掲載していくことも必要。

#### ◇構成団体

- ・当団体では、イベントを自粛し、3月からの学校休校により、クラスに参加できない、ボランティアに来られないという状態となった。収入のほとんどを、会費とイベント活動費で賄っているため、この半年間はほとんど収入がなくなった。家賃支援給付金制度の申請ができそうなので、試してみたい。
- ・ウィズコロナ社会では、情報連携が大切。今日集まっている団体の皆様との直接の情報交換の場を立ち上げていただきたい。SNS等を使い、情報交換できたら、お互いの絆が深まり、生活がさらにしやすくなると思う。

#### ◇構成団体

- ・新型コロナウイルス感染の現状を見ると、医療と薬の入手の支援が必要である。どの薬が必要か、アドバイスがいると思う。英語の話せる医者がある病院のリストがあるが、あまり知られていない。

- ・帰国できない短期滞在者は医療保険に加入していないため、診療費用が高く、負担になっている。患者が医師にウェブを通じて相談できれば、病院に行かずに受診できる。

#### ◇構成団体

- ・コロナ禍を通して、中国を非難する言動があったり、緊急事態宣言の中で開店している店舗や県外ナンバーの車などに対する事件も起ったりした。
- ・また、感染者並びにその家族、医療従事者等への誹謗中傷など、新型コロナウイルス感染症という現実上の差別と排外の言動と行動は、普段からの潜在意識が助長され顕在化したと言えるかもしれない。
- ・差別をなくしていくために、制度的にも、社会全体の人権意識としても、様々な努力を継続して行わなければならない。今後のウィズコロナ社会では、潜在的に蓄積した多文化共生社会の意識を阻害する差別排外意識をどのように解消していくかが課題と言える。
- ・多文化共生社会を推し進めるには、継続した啓発と制度拡充が求められていると考える。

#### ◇構成団体

- ・ウィズコロナ社会の中、多文化共生精神を発揮し、地域の人々と協力をするとともに、排他的ではなく、共に協力することが大切。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響による失業や倒産などで子供たちの授業料が払えないといった問題が生じている。この問題に対し、各学校では、学費の免除や半額にできないかなど、努力しているところであるが、家庭への支援などをお願いしたい。
- ・全国で実施されている幼児教育・保育の無償化は、外国人学校は各種学校という理由で適用されていないので、認めていただけるようお願いしたい。ウィズコロナ社会において、互いに協力することは非常に大切。

#### ◇構成団体

- ・このたびのコロナ禍は、年齢、性別、国籍、民族を問わず、大きな問題として降りかかり、子供たちは自宅待機、リモート学習などで不安な日々を過ごした。
- ・第2、第3波が懸念される中で、子供たちの安全・安心を確保し、学びを保障するとともに、3密を避けること、オンライン授業の実施、その設備投資等、対策を講じることが必要となるが、新型コロナウイルス対策費のほとんどが外国人学校には適用されていないのが現状である。
- ・ひょうご多文化共生社会推進指針の中にあるように、お互いが認め合うことが大切。外国人の子供たちを日本の学校に受け入れるとか日本語教育の部分では様々な施策が講じられているが、母国語教育、アイデンティティを育成する部分の施策は、物足りないと感じている。子供たちのそれぞれの教育を保障することが、非常に大切。
- ・ポストコロナ社会における多文化共生社会において、外国人学校の公立学校に等しい権利の確保と、より一層の支援をお願いする。

#### ◇構成団体

- ・新型コロナウイルスの感染拡大が始まってから、様々な問題やトラブル、今までなかったような相

談を多く受け、できるだけ母国語で情報発信している。

- ・フェイスブックやホームページ、ラジオ番組等で、母国語で情報発信しているが、新型コロナウイルス感染症の対策に対しての情報が非常に少ないと感じている。
- ・母国語での知事メッセージはとても大切で、感染者が増えてきているとか、これからどんなガイドラインに従ったらいいかというのはとても大切な情報になる。
- ・日本語のできない外国人が新型コロナウイルスに感染して病院に行くと、医師や看護師も困るので、県内在住者向けガイドライン等、多言語での情報発信が必要。

#### ◇構成団体

- ・新型コロナウイルス感染症に関する相談や職場でのパワハラ、家庭内でのDVについての相談もあった。母国に一時帰国をしていて、そのまま日本に戻れなくなっている人が現在もあり、反対に、日本に来ていて帰る予定だったのが、帰れなくなった人もいる。
- ・お金の問題もあるが、孤立感を感じている人もいる。国に帰れなくて家族がばらばらになっている人もいるし、心の支えになっている普段の活動がなくなっているというのも1つの原因かと思う。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、多言語の情報発信が普段より積極的になされていると感じるが、そこにたどり着けない人もいる。
- ・長く続く新型コロナウイルス感染症に不安を感じている人もたくさんいるので、自分も守られているということがわかるサポートや情報提供が、これからもっと必要になってくる。

#### ◇構成団体

- ・最近、外国人高齢者からの相談も増えており、地域の自治会等とのトラブルも増えているようである。
- ・トラブルは外国人側だけでなく、日本人側も困っていることを相談できる場所が少ないからではないかと感じている。日本人住民も外国人住民も相談できる場所、特に高齢者の相談に対応できる場所が必要。
- ・コロナ禍で、高齢者が家から出ず、家の中で問題が起こったり、体調不良で支援が必要になったりする場合がある。孤立してしまう可能性が以前より大きくなってきているので、考えていかないといけない。

#### ◇構成団体

- ・社会的に弱い立場におかれがちな住民のリスクが大きくなるなど、普段の社会のありようが問われていると思う。
- ・教育についても、外国出身の子供の保護者が日本語をできない場合は、家庭で教育のフォローができず、大変な目に遭ったと思う。
- ・IT環境が不十分な人をどう取り残さないかが大切だと改めて思った。
- ・知事のメッセージも多言語化され、すぐに発出することは大切だと思うが、必要な住民に届いているのかというと、まだまだ不十分である。
- ・今は相談窓口が有効活用されていると思うが、さらに連携が必要。こうやって、いろんな人たちがつながる場があるので、みんなでの場をいかしていきたい。

- ・ 1人も取り残されないように、1人でも情報が届かないことがないようにしっかりと取り組んでいく、そのことが日常的なつながりになっていけばいい。

#### ◇構成団体

- ・ 新型コロナウイルス感染症で皆さん苦勞されているが、母語教室や日本語学習支援も4月、5月は休みとし、この間、子供たちはずっと家にいた。6月に再開してから、子供たちもとても喜んで、いきいきと勉強をしている。
- ・ 親たちの仕事関係では、新型コロナウイルス感染拡大で仕事をなくした人は聞いていないが、仕事の時間が減り、給料も少なくなった人はいる。

#### ◇構成団体

- ・ 学習支援と母語教室は、3～6月の開催ができず、子供たちも困り、保護者も心配していた。7月から再開でき、子供たちも喜んで来ており、前より真面目に勉強してくれている。
- ・ それ以外の相談も多く、神戸市の案内を翻訳してフェイスブックに載せたが、高齢者はインターネットが使えないため、見られていない。新型コロナウイルスの感染が拡大し、対面での対応は望ましくないが、事務所の別の部屋で対応させていただいた。
- ・ 高齢者向けの支援をどのようにやったらいいか悩んでいる。若い世代であれば、ホームページやフェイスブックを見てくれると思うが、高齢者は少し難しい。
- ・ 相談で多いのは、新型コロナウイルス感染拡大で、日本に来たが、飛行機が飛んでないので帰ることができないというものである。技能実習生からは、期限が終わり、仕事もなくなり、住むところがないという相談もあった。

#### ○事務局

- ・ いただいたご意見は、次の5つぐらいにまとめられる。1つは、情報関係。知事のメッセージ、ガイドライン、給付金や支援金等、いろんな情報が今の現体制では少し分かりにくいということ。多言語化があまりされていなかったり、高齢者が情報弱者になっていたり、また、団体間の連携、情報交換の場が必要だという意見もいただいた。
- ・ 2つ目が教育関係。いろんな支援を受けられないことや、経済的な問題もあって、母語教室に来られない子どももいるというお話があった。これらも何らかの対応が必要だと思う。
- ・ 3つ目に活動が制限されていること。コロナ禍で、普段の活動がなかなか十分にできないという話があった。
- ・ 4つ目は、帰国できない、入国できないということ。入国できず、家族とも会えず、孤立している人がいる。また、高齢者が取り残されているという問題も指摘いただいた。
- ・ 最後に、重く大きな問題だと思うが、排外主義の問題。人々が不安に駆られたり、心に余裕がなくなったりすると、カテゴリー化したり、ステレオタイプ化して、実際に差別の行動に出てしまうという。これは、全ての人に啓発が必要だと思う。

#### ○事務局

- ・ ホームページが構造的に見つけにくいという話があったが、具体的なリクエストをいただければ、

より見つけやすくするためにはどうすればいいか考えていきたい。

### ○事務局

- ・自然災害や感染症拡大のような、いわゆる災害時には、社会的に困っている人、弱い人に大きな問題が発生するということを改めて感じた。また、平時に潜在的に持っている課題が明らかになってくることもよくわかった。改めて多くの課題があると認識した。そうした中で、困っている人たちに対して、守られている、連携しているという安心感を持っていただくことが何より大事だと思う。
- ・日本人でも分かりにくい情報を、それぞれの母国語で伝えるということもなかなか難しいことではあるが、情報提供については、もっと努力が必要だと思う。リモートなどの手段もあるが、顔を突き合えず中で相談に乗っていく、3密のことはあっても、困っている方々に対しては、そのような手段も用いていかなければならない。
- ・活動制限や、帰国できない方がいらっしゃるという問題については、災害時における現場への対応の問題として、制度論ではなく、場合によっては、対症療法的な手段を用いてでも早急に解決をしなければならない。
- ・排外主義、差別、この問題については、表層的な問題だけではなく、根源的な問題も含めて、皆様方の意見を聞きながら、努力をしていきたい。今後も引き続きの協力、よろしくお願い申し上げます。

### ○事務局

- ・指針改定に向けて、なるべく皆様の貴重な声を反映させていただきたい。皆様に協力いただきながら、一緒にいい指針の改定ができたらと思う。